

Costume and Textile

No.28

服飾文化学会会報

2014年9月

会長就任にあたって

能澤 慧子

服飾文化学会創立15年目を迎えた記念すべき今年度、会長に就任いたしました。

過去の会報を紐解きますと、平成14年度に2期目の会長就任の折の故石山彰先生の挨拶に、「学会というのは元来、半ばボランティア精神上に成り立つ面があり、それなくして維持することは難しい。つまり、相互に意見を交換し合う中から選びとって“せっさたくま”していくところにもっぱら意義を見出すものであろうから。」とあります。このお言葉を指針とし、ボランティア精神を礎とし、「服飾」というテーマを共有する本学会の皆様の「せっさたくま」の場を広げることに専心してまいります。

ところで、今年は我が国の「服飾」研究者にとっては記念すべき年と言えます。東京上野の国立西洋美術館で開催の「指輪」展において、18世紀から20世紀初頭までの西洋のドレス12点が展示されました。これまでも東京国立博物館では日本服飾部門が常設されてきましたが、洋服については東京都内の国立博物館・美術館は触れてきませんでした。この度の西洋美術館でのドレスの展示は、服飾の持つ美術性が、遅ればせながら市民権を得たことを意味しているように感じられます。

石山先生の上記の文章は「学会の活動も同じく長期の視点で息長くとらえる勇気をもたねばならないと思う。」と続きます。諸先輩の努力を受け継ぎ、この市民権の一層の拡大を目指し、本学会の活動を支えてゆきたいと思います。

さてこの度、新理事会が発足いたしました、学会設立時の理事の半数以上がすでに退任されました。世代の交代の時期といえましょう。ここまで築き上げて頂きました学会15年の歴史を新しい



世代へ引き継ぐための、新たな確実なステップの準備に、今期の2年間を充てたいと思います。
会員の皆様のご支援、ご鞭撻を乞う次第です。

役員改選について

2014・2015年度の34名の理事と2名の監事が選出され、担当は下表のように決まりました。

2014・2015年度 服飾文化学会役員

担当	氏名	所属
総務 会長	能澤 慧子	東京家政大学
	大網 美代子	大妻女子大学
	岡田 宣世	女子美術大学
副会長	大塚 有里	東京家政大学
	長田 美智子	鎌倉女子大学
財務	能澤 慧子	東京家政大学
事務局	伊藤 瑞香	和洋女子大学
	鈴木 桜子	杉野服飾大学
	塚田 耕一	杉野服飾大学
庶務	大網 美代子	大妻女子大学
	岡田 宣世	女子美術大学
	佐久間 恭子	女子美術大学
	須藤 良子	女子美術大学美術館
	中川 麻子	大妻女子大学
大会・総会	大塚 有里	東京家政大学
	萩原 延元	川村学園大学
	柳原 美紗子	財団法人日本綿業振興会
夏期セミナー	内村 理奈	跡見学園女子大学
	知野 恵子	東京家政大学（非）
	福田 博美	文化学園大学
論文発表会	田中 淑江	共立女子大学
	宮武 恵子	共立女子大学
研究例会	須藤 良子	女子美術大学美術館
	田中 淑江	共立女子大学
	玉田 真紀	尚絅学院大学
学会誌編集（論文編）	長崎 巖	共立女子大学
	池田 節子	
	佐久間 恭子	女子美術大学
学会誌編集（作品編）	深津 裕子	多摩美術大学
	宮武 恵子	共立女子大学
	清水 久美子	
会報編集	高野倉 睦子	神戸女子大学
	馬場 まみ	京都華頂大学
	森下 あおい	滋賀県立大学
監事	飯塚 弘子	
	斎藤 昌子	

2014 (平成26) 年度 第15回服飾文化学会大会の報告

平成26年度 第15回服飾文化学会総会・大会は5月17日(土)・18日(日)の2日間にわたり、神奈川県相模原市にある女子美術大学を会場に開催された。

晴天に恵まれ、遠方にもかかわらず、正会員73名、学生会員7名、非学生会員5名の合計85名の参加者があった。2日間の概要は以下の通りである。

1. 特別講演

女子美術大学美術館で行われていた「高田喜佐ザ・シューズ展」に関連して、服飾文化学会と女子美術大学美術館との共催で、日本のシューズデザイナーの草分け的存在の故高田喜佐氏のご令弟で、株式会社キサの代表高田邦雄氏と、レディーガガの専属シューズデザイナーとしても知られるファッションブランド「NORITAKA TATEHANA」の館鼻則孝氏によるトークイベントが、一般の参加者を含む約180名を集めて開催された。

28歳の館鼻氏の語る、「日本人の自分にしかできない (IDENTITY) 現代をとらえる力 (CONTEMPORARY) は未来において伝統になる (TRADITIONAL JAPANESE)」との公式や、71歳の高田氏の「モノづくりと遊びはクロスオーバー、喜佐さんは大好きなものを作品に取り入れていった。一旦常識から離れ、こんな靴が



トークイベント「THE SHOES」



能澤会長による開会の辞

あったら楽しいと考え、技術構造がともなわない場合は靴にこだわらない」とのお話は、会場のクリエイターには大きな刺激になったと感じられた。

2. 口頭発表

能澤慧子新会長の開会の辞に続き、口頭発表が行われた。発表件数は8件で17日午後に5件、18日午前に3件が行われた。内容は服飾史・ファッションデザインにかかわるものが多く、12分の発表時間に収まらず質疑の時間が足りない場面もあり、熱意にあふれたものであった。



口頭発表

3. 作品展示 ショートスピーチ

18日の口頭発表に次いで同会場で、パワーポイントによる作品・ポスターのショートスピーチが行われた。9件の発表が行われ、昼食をはさんで美術館のスタジオにて作品・ポスターを前に活発な質疑応答が行われた。



作品・ポスター 質疑応答

4. 総会

総会は今年度大会実行委員長、岡田宣世氏による司会のもと開会の辞が述べられ、能澤慧子会長挨拶の後、牟田緑氏を議長に選出し議事に入った。

報告事項として25年度事業報告を岡田宣世氏、決算報告を大網美代子氏、監査報告を伊藤紀之会計監査よりいただいた。その他の報告事項はなく、平成26・27年度役員選挙結果報告を大網美代子氏、事業計画を岡田宣世氏が行い、予算案と閉会の辞を大網美代子副会長が行った。

この後、荻原延元氏、柳原美沙子氏、大塚有里氏より今年度の徳島・淡路島方面への夏期セミナーについての説明が行われた。また、服飾文化学会誌の編集責任者である須藤良子氏より、投稿論文受付けの諸注意があった。

5. 懇親会

17日、18時より大学内の食堂にて懇親会が開かれた。塚田耕一氏の司会、元会長、伊藤紀之氏の乾杯の音頭で和やかな会が催された。



懇親会



司会 塚田氏 乾杯の御発声 伊藤氏

6. 女子美アートミュージアム見学

大会期間中、女子美術大学美術館で開催中の「高田喜佐 ザ・シューズ展」を自由見学でき、高田氏が好きだった黄色が敷き詰められたスペースには800足に及ぶキサシューズが並べられ、随所で「懐かしい」「かわいい」と感嘆の声が上がっていた。



「高田喜佐 ザ・シューズ」展

7. その他

展示作品の記録写真の希望者にはカメラマンの末正氏により作品展示終了後スタジオにて撮影が行われた。

開催校として、行き届かない点多々あったと思われるが、節目である第15回大会・総会を無事に終えることができた。これもひとえに会員・役員の皆様方のご協力のたまものと感謝申し上げます。

(大会実行委員 大崎綾子)

●服飾文化学会 第15回大会・総会プログラム

<5月17日(土)>

・特別講演 13:00~15:00

トークイベント「THE SHOES」

(女子美アートミュージアム・服飾文化学会共催)

講師 館鼻 則孝

(「NORITAKA TATEHANA」)

クリエイティブディレクター)

高田 邦雄氏(株式会社キサ代表)

開会の辞 15:25~15:30

口頭発表 15:30~16:45

◆座長 福田 博美(文化学園大学)

A-1 近世風俗画にみる草創期歌舞伎の衣裳の変遷

共立女子大学大学院 白土 亜枝

A-2 特許・実用新案から読み解く近代帯留の変遷

共立女子大学大学院 高須 奈都子

◆座長 長崎 巖(共立女子大学)

A-3 京都・染織祭(昭和6年創始)と女性時代衣装

龍谷大学社会学研究所 北野 裕子

A-4 大正時代を中心とした刺繍画について
-女子美術学校における刺繍技法を中心に-

女子美術大学 大崎 綾子

◆座長 玉田 真紀(尚絅学院大学)

A-5 デザイン画に描かれた体形の推移について

滋賀県立大学 森下 あおい

・女子美アートミュージアム自由見学

16:50~17:15

※開催中の「高田喜佐 ザ・シューズ展」の自由見学

・総会 17:20~17:50

・懇親会 18:00~19:30

<5月18日(日)>

口頭発表 9:30~10:15

◆座長 玉田 真紀(尚絅学院大学)

9:30 B-1 ブラウスのデザイン要素とイ

メージの関連

鎌倉女子大学 ○長田 美智子 丸茂 佐智子

元鎌倉女子大学 櫻木 英里子

◆座長 長田 美智子(鎌倉女子大学)

9:45 B-2 ユニバーサルファッションのデザイン設計に関する開発研究

大妻女子大学 大網 美代子

10:00 B-3 ファッション・デザイナーと社会構造

東京大学大学院 小形 道正

作品展示 ショートスピーチ 10:30~11:33

◆司会進行 佐久間 恭子(女子美術大学)

10:30 C-1 防災服兼用のタウン着Ⅱ
相模原女子大学 角田 千枝

10:37 C-2 ユニバーサルファッションのデザイン設計に関する開発研究-身障者のニーズに対応した一般商品を目指して-
大妻女子大学 大網 美代子

10:44 C-3 バレエ衣装制作のための身頃原型の設定

東京家政学院大学 富田 弘美

10:51 C-4 システムパニエ-基本型-
東京家政学院大学 富田 弘美

10:58 C-5 西洋服飾史実物資料のレプリカ制作(3)-エンパイア・スタイルのドレス-

東京家政大学 〇倉 みゆき 能澤慧子

11:05 C-6 伝統的麻織物によるタウンウェアの提案

滋賀県立大学 〇森下 あおい

クリエーションA・R 中川 涼子

11:12 C-7 毛織物服地の制作(壁掛け展示)

元東京田中短期大学 〇加藤 紘子 牟田 緑

11:19 C-8 現代社会におけるファッション動向とその周辺(Ⅱ)

i T C S 観光文化研究所 澤村 英子

11:26 C-9 野村コレクション小袖裂貼装屏風について

女子美術大学 岡田 宣世

・昼食・女子美アートミュージアム自由見学

11:40~13:00

・作品・ポスター展示の説明・質疑

13:00~14:00

特集記事 展覧会「Future Beauty日本ファッション：不連続の連続」展について

石関 亮（京都服飾文化研究財団キュレーター）

今春、筆者の所属する京都服飾文化研究財団（KCI）は、京都国立近代美術館との共催による展覧会「Future Beauty日本ファッション：不連続の連続」を開催した。本展は、日本のファッション・デザインの歴史とその創造性を考察するために企画された「Future Beauty」展の内容を基に構成した展覧会である。この巡回展は、2010年、ロンドンを皮切りに、日本を含む4か国、6都市で開催され、来たる11月からの豪州ブリスベンでの展示をもって、一旦、終了する。

展示は、「陰翳礼讃」「平面性」「伝統と革新」「物語を紡ぐ」の4つのセクションで構成されている。それぞれが色彩、フォルム、素材（テキスタイル等）、（デザインやコンセプトに付与される）物語性を軸に、伝統的な西洋ファッションや今日のファスト・ファッションとの対比において、日本人デザイナーが意識的／無意識的に打ち出しているであろう特質を浮かび上がらせている。

京都での開催に際し、私たちは現代ファッションと京都の産業とのつながりにもスポットを当てた。老若問わずさまざまなデザイナーが京都の企業や職人と協働して作り出した作品を多数出展し、不連続にみえる京都の伝統と東京発のファッションとの関係（＝連続性）を示そうと考えた。本展の副題「不連続の連続」は、こうした日本のファッションの特質を表したものである。

また、2012年に開催した東京での展示に続き、京都でも2000年代以降に活動を開始した新しい世代のデザイナーを取り上げている。服が容易に「消費」される現代において、彼らはサブカルチャーからの引用、あるいは独自の物語やコンセプトを織り込むことで、服自体に価値を持たせようとする。

ところで、本展では1980年代初期をひとつの時代の区切りととらえている。それは、コム・デ・ギャルソンの川久保玲や山本耀司がパリでコレク

ション発表を開始した時期である。彼らの打ち出したデザインは、西洋の伝統的な服作りと立脚点が異なることから賛否両論を引き起こした。色彩豊かだった同時代の欧米ファッションの流れに反し黒を多用した特徴的な色使いと共に後に「黒の衝撃」と言われるようになった。

この頃、海外メディアを中心に、日本人デザイナーの色彩感覚について、水墨画や谷崎潤一郎の「陰翳礼讃」、さらには禅の思想など、日本の伝統文化や美意識と結びつけられて論評されることが多かった。そして、それは日本人デザイナーに対する現在まで続く評価へとつながっている。

こうした国外メディアの反応は、オリエンタリズムの視点が多分に含まれている。（ファッションにおけるオリエンタリズムの表象については、成実弘至編『問いかけるファッション』が詳しい。）今回、第1セクションでは80年代の作品と共に、実際に掲載されたメディア評を、見出しだけが紹介し、当時の海外での反応を会場で再現しようと考えた。しかし、それはオリエンタリズムを内在化し再生産する危険性もはらんでいる。とはいえ、そうした批判も含め、日本のファッションに対する評価には、オリエンタリズムの視線が入り込む余地が大いにあるという事実を体感してもらうことが、議論を先に進めるきっかけになると考える。私たち自身も次の段階として、これまでとは違うベクトルで日本のファッションの歴史をとらえ直す必要性を感じている。



“Future Beauty: The Tradition of Reinvention in Japanese Fashion,” © Kyoto Costume Institute, photo by Osamu Watanabe.

特集記事 博士論文 江戸前期天和年間における染織品の実態研究 —三井文庫本『宗感覚帳』・『染代覚帳』の染織史的考察を基に—

沢尾 絵（東京藝術大学／杉野服飾大学非常勤講師）

江戸時代前期の染織品に関する研究は、小袖雛形本や染色関連の技法書、初期風俗画などの検討から、主に小袖服飾における意匠形式や文様に着目して進められてきた。しかし資料の多くは社会的地位の高い階層や裕福な町人層にまつわるものであり、得られる見解も支配者層・富裕層に関するものが大半である。そこで本研究では、新たに三井文庫所蔵の呉服関係史料『宗感覚帳』および『染代覚帳』を取り上げ、既存の研究資料を呉服史料の観点から再検討することで、江戸前期天和年間を中心とした京周辺の人々の衣生活に関わる染織品の実態に迫ることを目的とした。

第1章では、上述の二資料について書誌学的考察を行い、染織品に関する全記載内容を表にまとめた。『宗感覚帳』は越後屋呉服店を創業した三井高利の六男高好により天和3年から元禄3年(1683～1690)に記された私的な記録で、この中に当時流通した染織品の名称と価格が含まれる。『染代覚帳』は三井家の八代または九代当主により収集されたと考えられ、天和3年の紀年と共に染色名称と染価格が記されている。比較検討資料として、染織・服飾事情を詳しく記した井原西鶴の『好色一代男』ほか主要7作品と、言葉書きのある天和年間前後の小袖雛形本9種から、染織品に関する記述を網羅的に抽出し表にまとめた。以上を基礎資料として、2章から4章の研究を展開した。

第2章では、『宗感覚帳』と西鶴作品に共通して見られた毛類、縹子、紬、綸子、龍文（竜門）、紗綾、縮緬、羽二重、びろうどを抽出し、その実態と価格、受容の状況を検証した。その結果、これらの染織品を敷物や小袖として使用したのは太夫や歌舞伎女形役者、裕福な町人層など経済的に余裕のある立場の人々であったことを指摘した。またびろうどは、高級輸入織物のびろうどとこれに追従する形で出てきた国産の安価なびろうど色の2種類が同時に存在した時期であったことを指摘した。

第3章では『染代覚帳』記載の染価格に着目し、同時期の物価や西鶴作品中の町人風俗・金銭感覚との比較検討を行った。その結果、『染代覚

帳』が中流から下級の武士、町人、職人層および一般町人女性など社会の幅広い中間層を対象とした呉服関係の染色資料であることを明らかにした。

第4章では、『染代覚帳』記載の染色・加工名称について検証を行い、複数の新知見を得た。染色名称と価格からは、その客層が第3章の検証結果と一致した。全項目の三分の一を占める小紋について、西鶴作品や初期風俗画等からの検討より、当時既に京で小紋が普及していたことを指摘した。染法が不明であったさらさら染は、2枚または3枚の型を使用した型染で、木綿麻布地だけでなく絹紬地にも染められていた。無地染の中で、小袖雛形本に見られる高価で希少な赤・黄系統色は『染代覚帳』には見られず、『染代覚帳』が小袖雛形本の使用者層よりも低い階層を対照とした内容であることがわかった。加工賃・反物変更代金の存在は、客の好みに応じた受注生産が既に行われていたことを示すものである。

第5章では、本研究において新たに『宗感覚帳』・『染代覚帳』の資料的価値を見出した意義を述べ、得られた新知見を総括した。特に小紋については町人層への普及が江戸時代中・後期とする従来の説に再検討の必要性を提示した。また天和年間頃、びろうどには高級輸入織物と和製の安価な染色の2種類の意味があったこと、さらさら染は複数枚の型を用いて木綿や絹紬に染める型染であったことを明らかにした。これは従来小袖雛形本の文字表記のなかで十分な説明ができなかった「ぢびろうど」や「ぢさらさぞめ」の意味の解明となり、小袖雛形本研究にも寄与するものである。

以上、17世紀末に着実に京に芽生えていた社会の中間層の服飾や染織品が、その後どのような展開を見せるのか、またこのような商品が江戸に普及するのはいつ頃なのか、今後の研究課題とした。

※論文は2013年9月20日に日本女子大学大学院人間生活学
研究科において博士（学術）を取得したものです。

2014年度 第15回夏期セミナーの報告

第15回夏期セミナーは平成26年8月6日（水）～8日（木）の日程で徳島市周辺と鳴門市、南あわじ市を訪ね、阿波藍染を中心に、淡路人形座さらには最先端の技術による陶板画の大塚国際美術館見学を加えた研修の旅を開催する予定でしたが、大型台風により**中止**とさせて頂きました。今年の8月は大雨が断続的に続き、全国各地で大災害が発生しました。特にセミナー期間には台風11号が四国に進路を取り始めた為、万一のことを考え、開催2日前でしたが危険と判断。能澤慧子会長とも相談の上、中止の決断を下しました。何卒ご理解ください。

このセミナーの準備に関して先生方よりの良きアドバイスを戴きました。また淡路人形座においては**清水久美子先生による文楽衣裳**のレクチャーをお忙しい中、快くご準備していただきました。

夏期セミナーは柳原、大塚、荻原の3名が担当。春先から検討と準備を重ね、いよいよ6月に参加希望を募りますと、しばらくして定員に達しましたので、担当者として大変に嬉しいことでした。

この度、会報にセミナー報告の要請があり、8月下旬に一人旅で徳島・鳴門を訪ねてみました。初めは「**正藍しじら織り**」の**長尾織布**を訪ね、社長さんが工場内を案内して下さり、原糸を撚るところから、藍染を行う藍甕のある場所に入り、さらには大型の蒸し器を観て、しじら織りの加工、仕上げへの工程段階を詳しく説明をして下さいました。その次は「**藍の館**」で、ここは江戸時代の大藍商奥村家の屋敷と阿波藍資料館があり、藍製造の技を詳しく知ることができます。藍の長き歴史と、特に江戸時代には阿波藩の蜂須賀家と大商人たちが藍の製造を盛んに興し、日本一の藍の国にしてきた事を知ります。

さらには夏期セミナーで訪問する予定でした、**藍師第18代佐藤昭人氏**による藍の歴史と伝統文化継承についての詳しい解説文が掲示されており、多くの知識を得ることが出来ました。佐藤家をお訪ねした際、藍の葉は生育が早く台風が来る前に1番手、2番手葉の摘み取りができること、また吉野川の恵みとその肥沃な土によるものであることも知りました。

その日の午後、**鳴門海峡**の世界一の渦潮を観潮船で楽しみました。師の奥村土牛先生70歳の名作「**鳴門**」を想いました。翌日には鳴門大橋のそばに建つ、「**大塚国際美術館**」を訪ねました。とにかく想像以上のスケールの大きな展示がなされており、焼成に歪みのない陶板画による世界の名画



藍の大家商 奥村家屋敷

が違和感なく等寸大で作成されており、高精度の色彩処理技術は見事で、約1000点の作品が一堂に展示されていました。私はスクロヴェーニ礼拝堂の天井のジオットブルーの再現に、さらには大好きなピエロ・デルラ・フランチェスカのフレスコ画に、若き日のイタリア旅行での感動が甦りました。一見の価値大いに有ります。なお今回訪問予定をしていた**淡路人形座**には時間の都合により伺えませんでした。夏期セミナーの準備において、丁寧に対応していただいた淡路人形座の代表松山光代さんには大変にお世話になりました。なお、先日渋谷区の総合文化センターにて、1日だけの公演があり、誠に見事な淡路人形座の「玉藻前・九尾の狐」の舞台を鑑賞しました。

(夏期セミナー担当幹事 荻原延元)

◆◆◆ 展覧会のお知らせ ◆◆◆

■女子美染織コレクション展part 4 生命の樹 －再生するいのち－

会場：女子美アートミュージアム
期間：2014年9月6日（土）～10月19日（日）
休館日：火曜日（祝日の場合は開館し、翌水曜日休館）
開館時間：10：00～17：00（入館は16：30まで）
特別講演：生命の樹－再生するいのち－
日時：2014年10月4日 13：00～16：00
講師：鶴岡真弓（多摩美術大学教授）・杉浦康平（グラフィックデザイナー）
申し込み：必要 参加費：無料（入館料は必要）
定員：120名
美術館サイト：<http://www.joshibi.net/museum/>

■文化学園大学創立50周年記念

雛人形・雛道具に映し出された 雅の世界

Elegant Court Culture in Life and in Detail

会場：文化学園服飾博物館
期間：2014年10月10日（金）～11月22日（土）
休館日：日曜・祝日（ただし11月2、3日は開館）
開館時間：10：00～16：30（10/17、11/14は19：00まで開館）
ギャラリートーク：11月8日（土）13：30～（先着30名）
主催：文化学園服飾博物館

共 催：文化学園大学

特別協力：徳川美術館

日本人は古来、小さなものに慈しみを感じ、盆栽や箱庭、雛人形・雛道具に見られるような縮小されたものに世界観を表してきました。本展では、明治時代の雛人形・雛道具と、それらの元となる十二単や束帯などの装束や蒔絵を施した調度類を合わせて展示し、ひな形と実物大を比較して見ることで、現代のフィギュア文化にも通じる日本人のミニチュアに対する美意識の一端を探ります。

■ファッション史の愉しみ

一 石山彰ブック・コレクションより一

開催場所：神戸ファッション美術館

期 間：2014年10月18日（土）～2015年1月6日（火）

休 館 日：毎週水曜日、12月29日～2015年1月3日

展示構成：ファッション・プレート 275点

ファッション・ブックと服飾研究書、約160件、錦絵26点、18世紀～20世紀初期の実物衣装約50点

服飾文化学会初代会長、文化学園大学名誉教授故石山彰先生は、約70年の歳月をかけて蒐集された膨大な数の服飾史に関する稀観書、ファッション・プレート、錦絵からなるコレクションを遺されました。

1581年刊行の稀観書から20世紀初期のバルビエールパープらのポショワールまで、そして我が国の洋装化黎明期の様子を描いた錦絵も含めて、ファッション史の愉しさが詰まったこのコレクションの中からとくに貴重なものを選び出し、神戸ファッション美術館蔵の豊富な実物衣裳を合わせて展示します。

会計報告

①服飾文化学会 平成24年度収支決算書(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

項目	予算	決算	予算との比較(△減)	備考
収入				
(1)年会費	1,347,000	1,362,000	15,000	H25 6,000×1 H24 6,000×204, 3,000×17 H23 6,000×7, 3,000×1 H22 6,000×4, 3,000×1 H21 6,000×1, 3,000×1 1,000×9, 500×3 3,000×18
(2)入会費	20,000	10,500	△ 9,500	
(3)年間購読料	54,000	54,000	0	
学会誌				
(4)論文編掲載料	634,000	99,000	△ 535,000	Vol.13 84,000(掲載料)、 3,000×5(審査通信費)
(5)作品編掲載料	300,000	191,000	△ 109,000	179,000(掲載料)、 3,000×4(審査通信費)
その他	0	6,917	6,917	学会誌バックナンバー販売 6,000 利子 917
繰越金	358,128	358,128	0	
計	2,713,128	2,081,545	△ 631,583	
支出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
学会誌				
2)論文編発行費	900,000	433,752	△ 466,248	
3)作品編発行費	620,000	462,185	△ 157,815	
4)事務管理経費	200,000	166,000	△ 34,000	
5)通信費	110,000	49,400	△ 60,600	
6)会報発行費	150,000	149,840	△ 160	会報No.24.25
7)事務用品費	60,000	20,331	△ 39,669	
8)会議費	80,000	99,130	19,130	
9)交通費	50,000	20,210	△ 29,790	医室・理事会交通費(実費上限2000円)を含む
10)雑費	10,000	10,000	0	慶弔費
(2)事業費				
1)事業費A	50,000	61,005	11,005	研究例会
2)事業費B	150,000	163,249	13,249	論文発表会
(3)広報費	170,000	119,211	△ 50,789	ホームページ作成費を含む
(4)予備費	63,128	5,262	△ 62,866	生活科学系コンソーシアム24年度会費
(5)服飾文化基金	0	0	0	
小 計	2,713,128	1,859,575	△ 853,553	
(6)次年度繰越金		221,970		
計	2,713,128	2,081,545		

②服飾文化学会 平成24年度特別会計収支報告書

項目	収入	支出	残高	備考
前年度繰越金			1,462,355	
大会余剰金	22,302			
夏期セミナー余剰金	95,070			
名簿作成費		0		
			1,579,727	
項目	収入	支出	残高	
服飾文化基金	1,000,000			H21年度繰り入れ

③服飾文化学会 平成25年度収支予算(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

項目	予算額	前年度	前年度との比較(△減)	備考
取 入				
(1)年会費	1,347,000	1,347,000	0	
(2)入会費	16,000	20,000	△ 4,000	
(3)年間購読料	54,000	54,000	0	
学会誌				
(4)論文編掲載料	450,000	634,000	△ 184,000	
(5)作品編掲載料	250,000	300,000	△ 50,000	
その他	0	0	0	
繰越金	221,970	358,128	△ 137,075	
計	2,338,970	2,713,128		
支 出				
(1)経費				
1)総会運営費	100,000	100,000	0	
学会誌				
2)論文編発行費	700,000	900,000	△ 200,000	カラー写真掲載5万円を含む
3)作品編発行費	500,000	620,000	△ 120,000	大会費表紙の印刷7万円を含む
4)事務管理経費	200,000	200,000	0	
5)通信費	110,000	110,000	0	
6)会報発行費	150,000	150,000	0	
7)事務用品費	60,000	60,000	0	
8)会議費	80,000	80,000	0	
9)交通費	50,000	50,000	0	医室・理事会交通費(実費上限2,000円)を含む
10)雑費	10,000	10,000	0	
(2)事業費				
1)事業費A	60,000	50,000	10,000	研究例会
2)事業費B	160,000	150,000	10,000	論文発表会
(3)広報費	150,000	170,000	△ 20,000	ホームページ作成費を含む
小 計	2,330,000	2,650,000		
(4)予備費	8,970	63,128		
計	2,338,970	2,713,128		

***** 事務局より *****

●新入会員

正会員

梅 田 悠 希 (文化学園大学)

北 川 ケ イ (彩レース資料室)

三 富 あすみ (文化学園大学)

青 山 めぐみ (文化学園大学)

磯 野 圭 作

加 藤 紘 子

学生会員

大 橋 茉 紀 (東京家政大学大学院)

古 田 賢 (立命館大学大学院)

●会員名簿作成についてのお願い

今年度の事業として、会員名簿の作成を進めております。すでに皆様に調査票をお送りし、回答の締め切りも過ぎておりますが、まだの方は、急ぎご返送ください。

会報 No.28：2014(平成26)年9月30日発行

編集発行人：服飾文化学会

事務局：173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1

東京家政大学服飾史研究室

TEL：03-3961-8273

E-mail：nohazawa@tokyo-kasei.ac.jp

URL：http://www.fukusyoku-bunka-gakkai.jp